

令和6年度「新潟の産業・企業を知る講座」委託業務実施報告書

1 事業の実施結果

(1) 取組タイトル 地域振興論

①交付要綱第2条の該当取組番号

- ①県内企業の経営者等による
- ②県内企業見学

②取組の目的

地域振興の在り方について、総合的な視野から授業を行う。外部講師による教室での講義に加え、現場を目で見て学ぶことで新潟県内の企業を知り、定住、就職促進に繋げることを目的とする。

③取組の内容

(協力企業名、日程、会場等を含む。)

本授業は本学の教員に加え、外部講師を含む様々な業界の講師によりオムニバス方式で実施する。また、新潟県内の企業、自治体などを実際に訪ねるフィールドワークを行い、県内就職への意識を高める。

〈日程〉

①県内企業経営者等による講義・講演

講師名(敬称略)	役職名等	講義日	講義テーマ	受講者数	指定企業
小田 芽久実	アステル・メグルラボ 代表	9月27日	人生を豊かにする生き方・働き方(WLBだけでは見えてこないこと)	19名	
西村 遼平	(株)la Luce e L' ombra 代表取締役	10月4日	主体性を持って地域課題と対峙する	17名	
佐藤 可奈子	women farmers japan 株式会社 代表取締役	11月8日 ↓ 変更 1月10日	農業課題を突破するローカルイノベーション	14名	
井口 智裕	株式会社いせん 代表取締役	11月15日	観光地域づくりに向けたブランディング戦略。訪日旅行客を対象とした新たな宿泊施設のデザインなど	16名	
田辺 靖典	柏崎市産業振興部商業観光課 課長代理	12月6日	柏崎市の観光の現状と課題	18名	
山際 克也	株式会社第四北越銀行 コンサルティング事業部 部長	12月13日	新潟県のために銀行ができることは	15名	

小保方 薫	株式会社ブルボン総務推 進部 CSR 企画室 室長	12月20日	CSR の概念と実践	19名	
-------	------------------------------	--------	------------	-----	--

県内企業の経営者等を招へいし、地域振興の現状や取組について講義いただく。

会場：本館2階203教室

※当初11月8日に講義を予定していた講義は、講師都合により1月10日へ変更。

②県内企業見学

新潟県の産業の強みや企業の魅力溢れる事業の実態を知り、産業の現場を体験することによって、インターンシップや就職活動に踏み出す第一歩とする。

見学先	所在地	見学日	参加者数	指定企業
株式会社阿部建設	柏崎市比角 2-3-26	10月18日	18名	
マルソー株式会社 長岡新産 SLC	長岡市七日町 53	10月25日	14名	
株式会社アオキ住建	柏崎市松美 2-2-47	11月1日	11名	
株式会社テック長沢	柏崎市大字藤井 1358-4	11月1日	7名	
柏崎消防本部	柏崎市三和 8-51	11月22日	18名	
朝日酒造株式会社	長岡市朝日 880-1	11月29日	16名	

④取組協力県内企業数

a 協力県内企業数	b うち県指定企業数
13	0

a 企業一覧

アステル・メグルラボ、(有) la Luce e L'ombra、株式会社阿部建設、マルソー株式会社、株式会社アオキ住建、株式会社テック長沢、Women farmers japan 株式会社、株式会社いせん、柏崎消防本部、朝日酒造株式会社、柏崎市商業観光課、第四北越銀行、株式会社ブルボン

b 企業一覧

⑤参加学生の学年、学部及び人数

経済学部経済経営学科2年生全員・全学部2年生以上の希望履修者
(履修登録者数：28名)

⑥効果検証結果(添付①参照)

表を見ていただいて分かることは、県外生が多いためか、講演してくださった方が勤務する企業名を知らなかった場合も多くあるが、講演を聴いて就職先の一つとして考えるようになったり、引っ込み思案の学生が多い中でも、インターンシップに関わってみようとか、聞いた内容を友人にも伝えようなどの変化が起きていることがわかる。

もちろん予め希望職種が決まっている場合もあるため、どの学生にも変化がもたらされたわけではないが、新しい気付きのもと仕事を考え始めようとする気持ちの動きも感じ取れる。この意味では、「地域振興論」は学生が自分の将来を考える上で、頭の中だけでの

思考に留まらず、実際に講演を聞いたり、企業現場を見たりしながら、また疑問点を解消しながら一歩前へ進める効用があったと思われる。

2 今年度事業に係る総括、今後の課題等

(1) 今年度の「地域振興論」について

授業のはじめに、新潟県からの支援があること、その理由や地域の企業が本学学生のために準備をしてくれていること（これには県外学生が比較的多いことなども考慮して準備がなされていること）を伝えた上で、よく聞いてもらいたい、出来ることならメモを取り、分からないことなどは積極的に質問して欲しい旨を伝えておいた。

例年なら、授業後に質問が出ることがなかったが、今年度は多数の学生が積極的に手を挙げて質問するなど、授業そのものに活気がでていたと感じている。

また、学生にはレポートを課しており、その中から5～8枚程度を講演者に送付しているが、「こんなにきちんと聞いてくれていたことが分かり、嬉しいし、やり甲斐も感じた」というような反応も寄せられている。この意味で、講師の情熱と学生の意欲が噛み合った、素晴らしい時間となったと思える。

(2) 今後について

—次年度から全学科2年生以上を対象の2年次秋学期開講のキャリア科目へと変更—

この授業の内容は、3年後期から始まっている就職活動という視点では、事前の「企業研究」の要素が強いことが分かる。また、今年度の充実した時間を考えれば、これまでの地域連携科目から、本学の学生全員を対象としたキャリア科目へと分類を変えようと考えている。（それに伴って授業科目名も変更する）。こうすることによって授業参加者が増え、実施費用は少々嵩むであろうが、新潟県が本来目的としている地元企業への若者定着を推進できる可能性が高まると予想している。